

※※※※ 小学校と街のつながり ※※※※※※※※ 第五回 南小学校 ※※※※※

南小学校の合言葉は「すてきな出会いのある学校」です。

「すてきな友だちとの出会い」「すてきな授業との出会い」「すてきな自分との出会い」を3本柱に、人間関係づくり、学力体力の向上、自尊感情の育成などの観点から、子どもの教育を進めています。

本校は、桜の木がシンボルです。校内にある地区福祉会の施設もさくらルームと呼ばれています。また、周辺の方たちによって、学校の周りを季節の花々できれいに彩っていただいています。校区は、市内でも古くから開けてきた住宅街で、大正住宅博覧会跡のまちなみをはじめ、緑豊かで計画的に整備され、景観が保全された地域が多くみられます。また、とどろぶち公園など、子どもたちが遊べる場所も点在しています。



学校は、このようなよい環境に囲まれ、保護者や地域の方たちに支えられ、子どもたちは地域のいろいろな方たちに温かく見守られ、健やかな成長につながっています。本当にありがたいことです。

私自身は、これまで市役所の職員でしたが、昨年11月から学校現場で働いています。学校の子どもたちが日々それぞれの目標を持ってがんばっている姿やそれを支える教職員、地域の方たちの熱意に直接触れることができ、本校のよさを実感しています。

特に、今年は創立60周年の記念すべき年にあたります。



PTAや青少年を守る会の協力を得て、子どもたちの人文字を航空写真にした記念の下敷きや、子どもたちの笑顔の写真で60の文字を書いた記念パネルを作成いただいたりしました。

学校としても、9月の運動会では、2年生が団体演技で、色とりどりの手旗で60の文字を表したり、11月の音楽会では、6年生が作詞した記念ソング「ありがとう南小学校」を披露するなど、感謝の気持ちを

を込めながらお祝いをしています。

これからも地域の皆さまの協力を得ながら、「よく考え行動し、ともに高め合う子どもの育成」に努めていきたいと考えています。

箕面市立南小学校 校長 小西敏広

# 古民家の再生

## 建築家木村哲矢さんのお話

みのお市民まちなみ会議では、年に数回専門家やその道の研究者などにより、講演を頂き市民や会員の研鑽に供しています。11月10日会員でもある建築家の木村哲矢



さんから、若狭(福井県小浜市)の古民家の再生について多くのスライドを用いて、設計から施工まで経験談を聴かせて頂いた。一般の人には、あまり縁のない専門的な話でしたが、箕面の旧集落には沢山の古民家が在り、多くの方が秘かに、街並みとの調和、建物の保存と現代の生活とのほざまで、悩んでおられる方も多いと思います。非常に参考になるお話でしたので、講演の概要を誌上に載録致します。



**木村さんのコンセプト:古民家の再生は保存ではなく生活が目的**で明治12年に建てられた若狭の古民家は、130年という時間をかけて醸成されたものが多くありますので、それらを尊重し、現代的な生活が出来る様にある部分を変更し、現代的表現も入れて再生を行いました。古民家の空間は、基本的には壁で閉じないつくりで、昔からあった魅力的な要素は大事にしました。また座った時の目の高さや障子の一部にガラスを設けた視線の抜けを利用して、ほかの空間と繋がっていけるよう工夫しています。障子には一部色和紙を使って、空間にアクセントを与えています。カラフルな強い色はワンポイントにするなどの色遣いは場所に合うように調整しています。古民家は白壁と黒い柱、梁のイメージがありますが、再生後はご家族の新しい生活の場となる訳ですから、多少とも色みが在った方が良く考えました。古民家再生後は何年もかけてお住まいになる方が育てていくので、必然的にいろいろな色の持ち物が入ります。暮らしの色を邪魔する強すぎる色遣いを控えながら、彩りを添えたのです。

古民家の再生には、紆余曲折が付きまといまいます。当初の案が決定後、1年かからず完成する場合がありますが、今回の若狭の古民家の場合は、何度も案を練り直したこともありました。茅葺屋根の民家で改修計画を



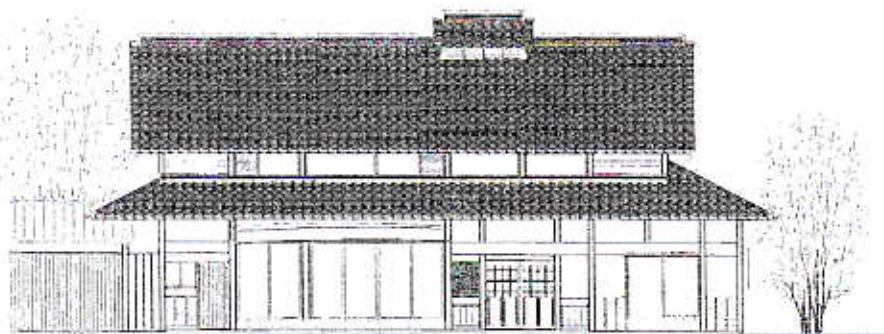
### :解体工事

今回の改修では、土葺の重い瓦屋根をすべて撤去し、新設。破風板や軒先垂木など雨がかりの材も交換している。



### :屋根葺き替え

新しい野地板の上は空葺の瓦屋根として軽量化を図っている。越屋根にはガラス瓦を葺いて天窓とした。

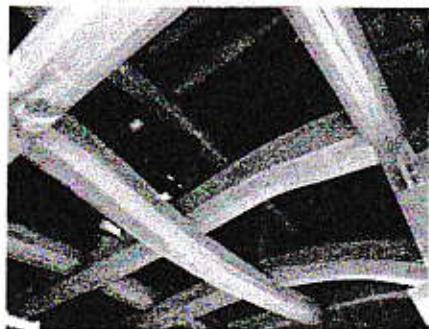




## 柱脚の更新

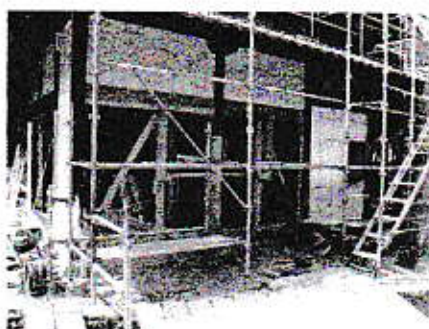
柱の傷んだ部分は除去し、新たな材を継いで一体化させている。欠けていた差し鴨居も追加した。

進めましたが、ご家族の話し合いで茅葺の維持管理への不安から、既存の民家を取り壊し、解体した柱・梁などの木材や家具を再活用して受け継ぐ、新築と変更になったのです。また、土地の風習でトイレと風呂の位置が、建物の中で決まっていたり、囲炉裏の煙出し小屋根の鯨を大きくしてほしい、という要望もありました。それらの要望を満たしつつ、天井裏を天窗からの光で満たし、天井全面を紙障子張りとする、明るい現代的民家へと再生させたのです。



## 小屋組みの洗い

長年にわたって積み重なった塵や汚れを洗い落として磨き上げ、強壮な小屋組みを美しくよみがえらせている。



## 外壁工事

外観の損なわれていた部分は、全体と調和するように外装を整えている。それと併せて構造の補強も行っている。



## 床板張り

寝室などの床には足触りの良い無垢の杉板を使用。常に人の肌に触れる部位である床材の選定には気を配っている。



## 外壁仕上げ工事

新たな木材と古材とが調和するよう塗装を施す。瓦まわりには黒漆喰、壁には黒漆喰の左官工事が進められていく。



## 内部床工事

もともと玄関土間であった居間、食堂はタイル張りの床として、民家らしい土間の趣きを再現している。



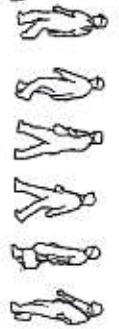
外壁を黒漆喰として落ち漆きと洗練を備えた外観。もとの玄関は、居間、食堂の大きな開口とし、明るく健康的な住まいとなった。設計と工事の約2年半を経て、民家は新たな生活の舞台を刻みはじめている。

完成

お話を聞いて、古いものを残したいという単純なノスタルジーだけでは、なかなか前に進めないことがよく分かり「個人の古民家再生は保存ではなく、生活が目的です。民家には、長い時間の中で醸成されてきたものが多くありますので、それらを尊重し、その上で現代的な生活ができるよう現代的表現を加えつつ、再生を行っています」という言葉が印象に残りました。

引用文献：ワールドフォトプレス社「古民家スタイルNo.19(995号)」

(文責：大町凱彦)



# タウンウォッチング

私達の住む美しい『みのお』を  
再発見しましょう

みのお市民まちなみ会議では、毎年8回タウンウォッチング(まちあるき)を行い、皆さんと一緒に街を見て歩いております。参加自由ですので、歩きながら「路上観察」しましょう。街に在る新旧取り混ぜて面白いもの、おかしなもの、引っ掛かるものを歩きながら発見し、箕面の街並みを楽しんでみましょう。建物から始まって門、塀、屋根、瓦、看板、マンホール、溝、石垣、樹木、草花など歩きながら、何でも見ましょう。今回はまちなみのなかの指定樹木を訪ねてのシリーズ1篇と日頃歩かない道散策シリーズ2編を紹介します。散策や探訪の参考にして下さい。

まちなみウォッチング 第76回

小野原、春日神社、墓地公園、今宮、西宿

2013. 7. 20

## まちなみの中の指定樹木を訪ねて散策(東部南コース)

ウォッチングコース

歩行距離 約4.4km

小野原南交差点 → 西国街道 → 御旅所の椋、榎 → 西国街道の裏街道 → 鷹野家の門冠松 → 春日神社の粗樫、黒灰(休憩) → 松出公園 → 阪急小野原住宅の緑道 → 墓地公園 → 今宮植村家の粗樫 → 北向き地藏の楠 → 西宿小路家の粗樫 → プロジェクトみどりの実験花壇 → 萱野中央(解散)

小野原南交差点を東に**西国街道**を進みます。古い街並みの美しい街道でしたが、旧家が解体され新しくマンションが建てられたり様相が変化しています。突き当りに、**東の常夜灯と楠水龍王堂**、享保2年(1802)建立の「左京・ふしみ道」の道標が立つ。春日神社御旅所の須賀神社、

稲荷神社に椋と榎が在りま

す。昨年の整備で境内は見違えるほど綺麗になりましたが、樹木が伐採され鎮守の森の面影が無くなったのは残念です。

御旅所の北側に、一人しか通れないような細い道が、くねくねと民家の軒先をかすめる様に続いています。西

